



## 岩崎友吉先生を偲んで

当学会の第 2 代会長を勤められました岩崎先生は、1990年(平成 2)12月 5 日、東京都台東区桜木町のご自宅で、心不全により永眠されました。78歳でした。

晩年は、足がご不自由となり、虎の門病院に数回入院されましたが、全快はしませんでした。それにも拘らず、学会の研究会の企画に協力いただき、また、研究会にも精力的にご出席の上、専門的立場で貴重なご発言をいただきました。

エッセイストとしても、各方面に健筆をふるわれ、最期まで現役で活躍されましたし、ユーモリストとお洒落の姿勢もくずされませんでした。

先生は、明治 45 年 4 月 10 日、横浜の貿易商の家に生を受け、水戸高等学校から東京帝国大学に進まれ、柴田桂太教授に教えを受けられました。柴田教授は、日本における文化財の自然科学的手法による研究の先鞭をつけたお方で、昭和 23 年、学士院のなかで、「古文化資料自然科学研究特別委員会」の発足に努力され、自ら委員長を勤められました。

先生は、在学中に 1 年間フランスに留学されたりして、

卒業後、同大学大学院に進まれ、理学部副手、助手として働かれた後、柴田教授のおすすめもあって、昭和 23 年、東京国立博物館に発足した保存修理課保存技術研究室に文部技官として勤務を始められ、昭和 24 年には金堂炎上直後の法隆寺国宝保存に関する調査を委嘱され、次いで、25 年に金堂壁画の化学的保存処置のために調査員を委嘱されました。

その後、各地で盛んになった歴史的建造物の修復に伴う内部の部材、色彩の保存処置を数多く担当されました。

先生は、このように、建造物などの文化財修復の現場や博物館などの保存展示の現場で文化財の保存に携わられたわが国最初の自然科学者でした。

大学の研究室で研究するのではなく、1 年中文化財の保存工事や処置をしている現場に向かい、現場の声を直に聞き、自然科学的方法で対処して来られました。

昭和 27 年に、東京国立文化財研究所に保存科学部ができると同時に、同部化学研究室の研究官となられ、その後、化学研究室長、修理技術研究室長を経て、昭和 48 年、修復技術部発足と同時に修復技術部長となられ、翌 49 年

退官されました。

同研究所に名誉研究員制度ができて以来、名誉研究員として後進への指導に当られました。

昭和59年には、保存科学のパイオニアとして永い功績に対して、勲四等旭日小綬章を受けられました。

高名な高松塚古墳が昭和47年に発掘され石室内の壁画保存についても、ヨーロッパの壁画保存の実態調査に始まり、専門家を招いて、修理方針の決定に深く関わられ、また、研究所退官後も、高松塚壁画再現班で、故寺田春弑氏とともに研究に当られ、完成されました。

古文化財科学研究会には、創立当初から柴田門下として運営に参画され、同研究会講演大会では、文化財保存やその研究が、あまりに技術や自然科学的手法に流されるのを愁い、「ソフトコンサーベーション」を提唱されました。

海外との研究交流に関しましては、昭和39年から40年にかけて、ベルギー王立文化財研究所で客員研究員として文化財保存の西欧的手法を研究されたのを契機として、昭和42年に、イクロム（ICCROM・文化財保存のための国際研究機関）に加盟した日本の政府代表として、加盟後8年間におよんでその運営に関わられ、昭和44年からは、同機関の理事をつとめられました。

昭和61年には、アジア地域では初めて、多年の功績に対して、文化財保存のノーベル賞ともいふべき、イクロム賞を受けられました。

昭和47年以来、IICのフェロー。また国際博物館会議（ICOM）日本代表をつとめられました。これらは、先生の超人的な語学力をフルに活かしてのご活躍でありました。

先生の外国語や料理に対する造詣の深さはつとに有名

で「私は国宝修理屋」をはじめ、「大正っ子のおしゃべり」昭和50年、「文化財の保存と修復」昭和52年、「外国語を学ぶたのしみ」昭和55年などの著作があり、なかでも「大正っ子のおしゃべり」の中の「炭火」という好編はその年の年間優秀100エッセイに選ばれています。

外国語とのおつきあいは、30ヶ国語におよび、しかも、話すだけでなく、読み書きをともしなうわけで天才としか言いようがないと思われまふ。中でもイタリア語、フランス語は最も得意とされていたようでした。

料理の雑誌「四季の味」には随筆「味の散歩道」を連載しておられ、また、書きためられた原稿が遺品の中から発見されましたので、先生は、黄土の人になられた後も、私たち読者を楽しませて下さることになり、名エッセイストの面目躍如たるものであります。

最後にユーモリストぶりを数年前にお作りになった川柳を借りてご披露をいたします。

「初日の出 もし出なかつたら どうしよう」

「初日の出 ゴペル＝クスも 伏し拝み」

「初日の出 去年の夕日の 焼きなおし」

謹んで、岩崎友吉先生のご冥福をお祈りいたします。なお、ご遺族のご住所は以下のとおりです。

Ms Mari Iwasaki

Roma Appio C.P.4079

00182 Roma ITALIA

佐々木朝登

(岩崎先生の写真は、枚方市の松尾めぐみさんのご協力によるものです。編集委員会)